

提出日： 2024 年 10 月 28 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
経済学部・国際経済学科	准教授	吉見 太洋

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日	2
	2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日	
	3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日	
	4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	研究期間中は米国ワシントン DC の American University (AU), School of International Service に客員研究員として滞在し、研究を進めた。主に行った研究は、日本、トルコ、タイといった国々の税関データを用いた決済通貨の決定要因分析に関する研究で、これらの研究成果は米国内の研究会や学会で発表した。自由貿易協定や日本の酪農分野の生産性分析にも取り組んだ。また、AU では、複数の授業にゲスト講演者として招かれ、日本やアジアの経済情勢に関する学生向けのレクチャーを行った。帰国後の研究推進に向けて、外部資金への申請等、発展研究の準備も進めた。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	研究期間内の研究成果は以下の通りである。 ・査読付き国際誌への論文掲載 (3 編) ・ワーキングペーパー/ディスカッションペーパーの発表 (7 編) ・国際学会等での研究成果発表 (3 回) ・AU の学内研究会における研究成果報告 (1 回) ・AU での講義におけるゲスト講演 (3 回) これら以外にも現地研究者との情報交換等を行い、人的コネクション構築を進めた。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	今後はまず、研究期間中に進めた研究の成果を論文として整理していく。特に、期間中には 7 編のワーキングペーパー/ディスカッションペーパーを執筆したが、これらの論文はまだ修正の余地も多いため、改訂を重ねた上で正式な学術誌掲載を目指す。また、ウェブやメディアを通じた研究成果のアウトリーチにも取り組みたい。さらに、期間中に進めた研究をベースとして、来年度以降の外部資金獲得に向けた各種申請も行った。それらの採択結果も見ながら、今後さらに研究を進めていきたい。また、期間中に培った人的コネクションに基づき、国際連携もさらに加速させていきたいと考えている。	